

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和8年度 第1回市民大学「あじさい大学コース」検討委員会		
事務局 (担当課)		高齢・障害者福祉課 電話042-769-8354 (直通)		
開催日時		令和8年5月22日(金) 午前10時00分～正午		
開催場所		相模原市役所 本庁舎 会議室棟2階 第3会議室		
出席者	委 員	8人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	9人(高齢・障害者福祉課長、他8人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 令和7年度の実績について (2) 令和8～9年度講座案の変更点について (3) あじさい大学コースに対する意見・要望について (4) 令和10年度以降の開催について		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 あいさつ

(小林委員長)

あじさい大学コースの内容について、市民の皆様がどのように捉え、そしてその実績、あるいは意見要望と、まさにその息遣いが、読み取れるような資料が今作られている。非常にありがたいと思う。事務局の丁寧な仕事ぶりに深く敬意を評する。

机上の空論で自己満足に陥らないよう、精査、検証し、さらにバージョンアップをした姿で市民の方々に学びの場を提供できればと願っている。

皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 議題

(1) 令和7年度の実績について

「資料1」により事務局から説明を行い、質疑応答を行った。

(大谷委員)

資料1の18ページの表中で一部網掛けをしている理由を教えてください。

(事務局)

他と違いがある箇所について、網掛けをしている。

(小野委員)

資料1の18ページについては、各講座の特色が示されているものだと認識した。また、卓球講座のアンケート結果が他講座と違いがあるということで網掛けをして目立たせているが、それほど大きな差はないと捉えられる。今回分析した内容を参考に、次回開催に活かしていただきたい。

(大神田副委員長)

1つ目は、資料1の6ページに「講座を受講したことにより、自分自身の生活が豊かになり、より深く学習したいという意欲をもつことができた」と記載されている。この「意欲」について、昭和40年にユネスコの会議でポール・ラングランが「生涯教育」を提唱した。「生涯教育」とは、「ゆりかごから墓場まで、教育は継続して行わなければならない」という理念であり、「生涯学習は、まずもって意欲である」という言葉がある。

その「意欲」という言葉が資料1に記されており、改めて「意欲」が大事だと感じた。

また、最近、動画配信サイトで見た内容になるが、超高齢社会になって百歳

代まで生きている方に一番共通していることは「好奇心を持っている」ということであり、好奇心・意欲は長寿にも関連してくるのだと思った。

2つ目、資料1の13ページに「気軽に参加でき、社会参加や出かけるきっかけになったという声がみられる。」と記載がある。特に女性の方はサークル活動や習いごとなどに参加される方が多く、男性はなかなか集まらないという状況であるが、資料に記載のとおり、あじさい大学コースは活動のきっかけになっているのだと感じた。

最後に、資料1の22ページの記載のとおり、多くの受講者がサークルなどで活動を継続したいと思っているということだが、最終回の講座の後に意見交換をする機会をもったことが効果的だったのだと思われる。地域でもボッチャの大会のあとに「みんなで集まって懇親会をしようよ」と希望する声もあった。皆さんは話をしたいのだと感じた。

(杉野委員)

資料1の15～17ページの内容については、18ページの後にした方がよいと思う。男性の参加状況や講座の進行速度など、新規実施講座と他講座との受講者のアンケート結果から分かる違いを示した後に、その内容も踏まえて分析をした、という流れが良いと思う。

(大神田副委員長)

資料1の2ページに記載されている定員数については、どのように決められているのか。

(事務局)

今までは全講座一律の定員数としていたが、令和7年度以降は会場のキャパシティと、講師と調整のうえ定員数を定めた。

(大神田副委員長)

難しいとは思いますが、男性が活動を継続する機会づくりのためにも、配慮いただければと思う。

(事務局)

男性の参加が少ないことについては、事務局でも課題として捉えている。

(2) 令和8～9年度講座案の変更点について

「資料2」により事務局から説明を行い、質疑応答を行った。

(小野委員)

資料2の3ページに記載のある「スポーツ・レクリエーション講座」について、元の名称は何だったのか。

(事務局)

元は「ニュースポーツ講座」である。講師から提案があり、変更した。

(3) あじさい大学コースに対する意見・要望について

「資料3」により事務局から説明を行い、質疑応答を行った。

(小林委員長)

資料3の内容は、令和7年度に開催した検討委員会時の意見・要望のみか、それとも、それ以前の意見・要望も集約されているものか。

(事務局)

令和7年度に開催した検討委員会より以前の意見・要望も集約されているものである。

(杉野委員)

資料3の2ページに記載している「公民館などの窓口で職員などが紹介できるような仕組みづくり」については、既に解決したのか、それともこれから検討なのか。

(事務局)

現在調整中である。

(原田委員)

1つ目、資料1の15、16ページに「受講の主な目的を明確化する」という記載があったが、現在のチラシ、講義案内の内容だと目的が読み取れない。例えば、令和8年度前期市民大学講義案内の11ページの書道講座は最初の一文で「相互の親睦を図り、文字を書くことの楽しみを目的とします。」と記載されているため目的が分かるが、他講座は目的が明記されていないため、受講の主な目的を読み取ることが難しい。表現について工夫が必要かと思う。

2つ目、資料3の2ページに記載されている受講後の活動や周知方法の拡充について、相原公民館では200を超えるサークルが活動している。あじさい大学コースとの違いは、受講料を支払い、専門的な講師からより高い技術や知識を習えることだと思うが、そこにメリットを感じられるかどうかだと思う。

そこにメリットを感じることができれば、市民大学カフェを通して受講後のサークル活動につながる、とても良いサイクルになっていると思う。

ただし、新しいサークルを結成されたときに、きっかけとなったあじさい大学コースと同じようなレベルが維持できるか、それをどうケアしていくのか、「サークルを結成された後は皆さんで活動してください」というだけであると、公民館で活動するサークルが増えるだけになる。それはあじさい大学コースの目的ではないと思う。結成された後、新設したサークルをどのように支援していくのが大事だと思う。

最後に、令和8年度前期市民大学講義案内の8ページに「こんな方におすすめ！」と掲載されているが、令和8～9年度市民大学「あじさい大学コース」

講座一覧（案）チラシを見た際に「自分が受けていいのか。」「経験者でなくても受けて良いのか。」となると思う。最初に市民が目にするチラシに「こんな方におすすめ!」という内容を明記した方が「自分でも受講できる。」「経験がなくても大丈夫だ。」と、受講する意欲につながると思う。最初のファーストインプレッション（第一印象）を大事にしていきたい。

（事務局）

周知物の表記及びご提案いただいたサークル結成後の支援について、今後検討する。

（大谷委員）

とても良い講座があるが、田名地区などの方たちはどのくらい参加しているのか、交通事情もあるので、中々参加は難しいのではないかと、いつも感想として思っている。

現在の会場は田名地区からは遠い。とても良い講座を開催しているので、既に配慮いただいているところではあるが、多くの方が参加できるようになると良いと思う。また、フラダンスを習った方がおり、「音楽に合わせて体を動かすフラダンスは体にとっても良い」と言っていた。

動くことが難しい地域に住んでいる人もいることを念頭に置いていただけるとありがたい。

他にも、市体操協会の方が講師をされている健康体操講座はとても人気であり、そういった方の講座を開催いただいているのはありがたいことだと思う。

（事務局）

様々な地域での開催については、事務局でも課題として捉えている。

（４）令和１０年度以降の開催について

「資料４」により事務局から説明を行い、質疑応答を行った。

（小野委員）

卓球講座について、レベル分けの課題が出てきたと思うが、資料１の１７ページでは「次回開催に向けた分析」の欄に今後の対応について「競技スポーツについては適宜レベル分けを更新する」という旨が記載されていたが、資料４の１３ページでは「競技スポーツではなく、競技性の低いニュースポーツの内容で開催する」に変わっている。この変更に至った経緯を教えていただきたい。

（事務局）

資料１の１８ページのとおり分析した結果等も踏まえて検討し、ニュースポーツの内容で開催する、として令和１０～１２年度の講座案を作成するにいった。

（小野委員）

様々なことを踏まえて検討した結果だと理解した。今後はスポーツ系講座が1つ減り、ニュースポーツ講座になるということか。

(事務局)

3年間のスポーツ系の講座について、今まで内容は限定せず、競技性のあるスポーツやニュースポーツ講座等、様々な内容で開催していた。今後、ラダーゲッターやボッチャ等、詳細な内容は未定であるが、ニュースポーツ講座の内容で固定化するとして案を作成している。

(大谷委員)

資料4の15ページで「未定」としている講座内容については、後日関係団体等とヒアリングしたうえで、次回の検討委員会で提示するという認識で良いか。

(事務局)

認識のとおり、例えば市スポーツ協会や市文化協会等にヒアリングをしたうえで詳細な内容を検討し、次回の検討委員会で委員の皆様にお示しする予定。

(杉野委員)

資料4の13ページ「(2) 開催時間」欄にスポーツ系は「講座時間外に準備と片づけを実施する」旨の記載されており、文化・芸術系は「準備や片付け、講師からの講評は講座時間内に」という旨の記載がされている。同じ準備と片づけが

講座によって講座時間外と講座時間内に実施する場合で分かれている。この違いは何か。

(事務局)

文化・芸術系は講師からの講評等も含めるため、準備・片付けの時間も含め講座時間外に実施することとし、極力受講料が上昇しないように案を作成した。

(杉野委員)

受講料が上がるということは、講師謝礼の上昇に伴ってということか。

(事務局)

準備・片付けの時間については講師の謝礼は発生しないため、講座時間外に準備・片付けを実施することで受講料の上昇を抑えるとして資料に記載している。

ただし、文化・芸術系においては、講師からの講評は謝礼が発生するため、受講料の上昇を抑えつつも、受講料の上昇は致し方ない部分だと考えている。

(杉野委員)

スポーツ系は講師からの講評はないのか。

(事務局)

スポーツ系は講師からのアドバイス等は適宜あるが、長い時間を取ることは

ない。文化・芸術系について、水彩画を例に挙げると、一つのステップを進むごとに講師が全員の様子を見て、例えば筆づかいを教える等の講評も含む指導等がある。そのため、実際に筆を動かすような実技の時間が短くなっていた。

(杉野委員)

それは水彩画や油絵等では生じるかと思うが、文化・芸術系は他にも様々な講座がある。極力、回数を変えないで開催いただければと思う。

(事務局)

準備・片付けの時間を講座によって講座時間内にするか、講座時間外にするか、という違いによって混乱等が生じないように、統一した方が良いかとも思われるため、いただいた意見を踏まえ、改めて検討する。

(望月委員)

あじさい大学コースはきっかけづくりが目的であり、そういった気持ちを持つことに注力していると感じた。

自身もヨガやグラウンド・ゴルフ等の活動が続けており、毎週何回も活動している。あじさい大学コースは、そういった活動を継続するレベルになるまでに、もっと向上したい気持ちを持たせるためのきっかけづくりなのだと感じた。きっかけづくりのための工夫をこれから勉強させていただきたいと思う。

(井上委員)

資料4の12ページに記載しているとおり、あじさい大学コースはきっかけづくりのための講座であると思っている。市文化協会に囲碁教室の方が入られた。囲碁教室は多くの男性が興味を示している。そこに女性が入るのもとても良いと思うが、体験教室も多く開催しており、自身も囲碁を始めて体験した。囲碁教室の方から「囲碁は高齢の方の脳活にも良いが、子どもたちの柔らかい脳にも囲碁やマージャン等はとても役に立つ」と聞いた。そのため、例えば高齢の方が講座で学んだことをお孫さんなどに伝えられるような学びが出来たらとても良いと思った。また、お華をされる方も市文化協会に入られた。お華をされる方から「自身がまだ小さい子どもの時、祖母と散歩している際に、祖母から花の名前や、摘んではいけない花等を教わった。」と聞いた。このような学びの継承はとても大切なことだと思った。あじさい大学コースでの囲碁や華道講座の開催について提案したい。

3 その他

「参考資料」により事務局から説明を行った。

(事務局)

事務局から2点、ご連絡がある。

1点目、受講者の皆様にご負担いただいている受講料について、受益者負担

の適正化の観点から見直しを行い、令和９年度以降は参考資料のとおり受講料が増額となるため、ご承知おきいただきたい。

２点目、次回の検討委員会は令和８年１１月を予定している。日程及び会場は、改めて調整させていただく。引き続きご協力をお願いしたい。

閉 会

令和８年度 第１回市民大学「あじさい大学コース」検討委員会
出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	相模原市社会教育委員会議 委員	委員長	出席
2	大神田 賢	相模原市老人クラブ連合会 会長	副委員長	出席
3	井上 邦子	相模原市文化協会 会長		出席
4	大谷 政道	学識経験者 (元田名公民館長、元鹿島台小学校校長)		出席
5	小野 浩之	公益財団法人相模原市スポーツ協会 常務理事		出席
6	杉野 孝幸	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		出席
7	原田 和明	相模原市公民館連絡協議会 副会長		出席
8	望月 規男	相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事、会計		出席